

山鹿市景観形成地域の色彩ガイドライン

(山鹿市への移管前(平成10年3月31日まで)のガイドライン)

1 山鹿市景観形成地域の範囲

山鹿市景観形成地域は、下図に示した山鹿市中心部の旧豊前街道及び幹線道路の沿道と温泉街をあわせた地域です。

地域は、景観資源の配置状況などから、さらに5つのゾーンにわけられます。

- 1ー豊前街道沿道ゾーン(A)
- 2ー豊前街道沿道ゾーン(B)
- 3ーシンボルストリートゾーン
- 4ー温泉街ゾーン
- 5ー国道3号沿道ゾーン



写真 国指定重要文化財「八千代座」

2 景観づくりの基本的考え方

山鹿市は、県北部鹿本地域の行政、文化、経済の中心地であるとともに、古くからの温泉郷として知られています。

また、国指定の重要文化財である八千代座をはじめ、市民生活とともに生まれ育った歴史的・文化的資源や環境が数多く残されています。

山鹿市景観形成地域においては、歴史・文化的環境を守りながら、県北部の中心として格調と統一性をもったまちなみ景観の形成を図るため、次の基本的考え方に沿った景観形成を進めます。

- 1ー歴史の息づく人々の営みを柱にした生活拠点、観光拠点の創出
- 2ーまちの個性を引き立たせる要素としての歴史的遺産の保全継承
- 3ー都市施設と自然景観が身近に結びついたネットワークの形成

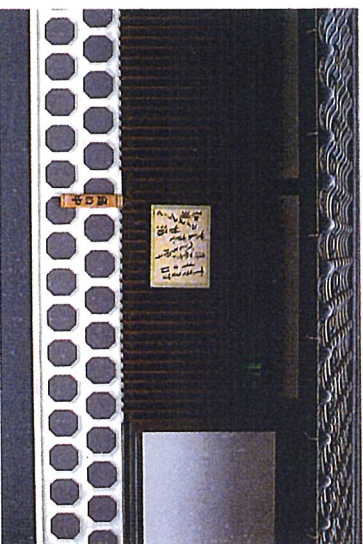


写真 旧豊前街道のみやげ物店

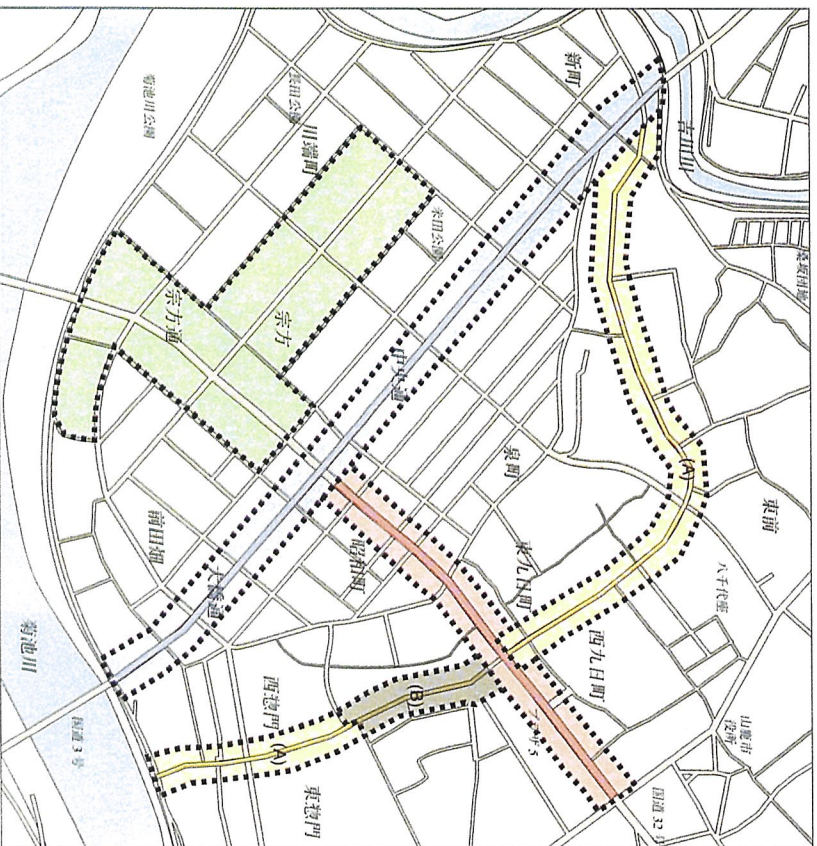


図 山鹿市景観形成地域の範囲とゾーン区分

● 区域

豊前街道沿道ゾーン

山鹿市道大橋西上町線の区間のうち、菊池川との交点から終点である国道3号との交点までの区間の道路の路端から両側20m以内の区域

シンボルストリートゾーン

国道325号の区間のうち、国道3号との交点から市道山鹿熊入線との交点までの区間の道路の路端から両側20m以内の区域

温泉街ゾーン

川端町、中央通、宗方通、大橋通の各一部

国道3号沿道ゾーン

国道3号の区間のうち、菊池川との交点から吉田川との交点までの区間の道路の路端から両側20m以内の区域

豊前街道沿道ゾーン(A)

豊前街道沿道ゾーン(B)

シンボルストリートゾーン

温泉街ゾーン

国道3号沿道ゾーン

3 山鹿市景観形成地域の景観形成基準

■表 山鹿市景観形成地域の景観形成基準(建築物等の色彩に関するもの)

豊前街道沿道ゾーン	豊前街道沿道ゾーン	シンボルストリートゾーン	温泉街ゾーン	国道3号沿道ゾーン
-----------	-----------	--------------	--------	-----------

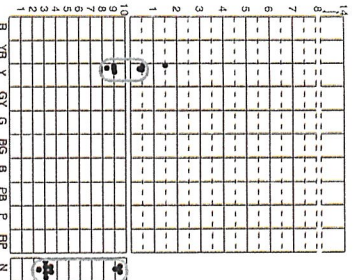
建築物等	外観	色彩
屋根及び庇	黒もしくは灰色、またはこれに近い色彩のものとする。	外壁及び屋根は、周辺の景観と調和した落ちつくは灰色、またはこれに近い色彩のものとする。
外壁	白・灰色もしくは黒、またはこれに近い落ちついた色彩のものとする。	外壁は周辺の景観と調和した落ちついたものとする。
窓や格子等の建具	黒または濃い茶色のものとする。	外壁及び屋根は、周辺の景観と調和した落ちついたものとする。

同一敷地内における建築物等は色調を統一するとともに多色の使用は避けるものとする。

4 山鹿市景観形成地域の色彩景観の現況

4 山鹿市景観形成地域の色彩景観の現況

八千代座や酒蔵を核とした歴史的まちなみ



多くの建物が白や暗灰色などの無彩色を外壁の基調としています。
わずかに色味のある、ベージュ系の色彩もみられますが、まちなみの基調色は、ほぼほろっています。

豊前街道(A)ゾーンでは、国指定の重要文化財である八千代座や酒蔵などを核とした歴史的まちなみが形成されています。

昔ながらの建物を改修して利用したり、周囲の建築様式にあわせて新築するなど、古くから受け継がれてきた景観を継承しようとする地域の人々の努力がうかがわれます。それだけに、これらと異なった色彩や材質感をもつ建物や簡易広告物が、他の地域以上に違和感を感じさせます。

5 山鹿市景観形成地域の色彩景観づくりの目標

豊前街道(A)ゾーンでは、歴史的な建物の典型となっている無彩色に近い色彩・配色や建築材料を周囲の建物にも積極的に波及させ、まちなみに統一感と連続性をもたせることを、色彩景観づくりの目標とします。
また、豊前街道(B)ゾーンも(A)ゾーンにつながることから、同様の目標が望まれます。

新旧の建築形態が混在するまちなみ

豊前街道(B)ゾーン、シンボリストリートゾーン、温泉街ゾーン、国道3号沿道ゾーンでは、新旧の建物が混在し、個々のゾーンの特色が色彩景観に反映されていないのが実状といえます。また、各沿道には山鹿灯笼をモチーフにした街路照明等やコーナーポストなどが設置されていますが、建築化した巨大な広告物が目立ち、歴史が息づくまちなみのイメージが感じられないのも実状です。

歴史のまちにふさわしい品格のある基調色をつくる

シンボリストリートゾーン、温泉街ゾーン、国道3号沿道ゾーンは、歴史の息づくまちなみの導人となる重要なゾーンです。
現況において多く見られる明るく穏やかな色彩を基調とし、広告物などを整理することによって、歴史のまちにふさわしい品格のある基調色が感じられるまちなみを形成することを目標とします。

■表 外壁基調色の色彩ガイドライン

ゾーン	選べた方がよいゾーン(●)
豊前街道(A)ゾーン	明青色、暗青色、鮮明色
豊前街道(B)ゾーン	鮮明色
シンボリストリートゾーン	鮮明色
温泉街ゾーン	鮮明色
国道3号沿道ゾーン	鮮明色

■表 外壁基調色の色彩ガイドライン

推薦ゾーン(○)
白、明灰色、中灰色、暗灰色、黒、明褐色
明灰色、中灰色、明褐色、中褐色

※1—表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。
※2—各トーンの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照して下さい。

6 山鹿市景観形成地域にふさわしい色彩(豊前街道(A)(B)ゾーン)

無彩色による配色が基本です

豊前街道(A)(B)ゾーンの建物は、古くからこの地域に見られる白や灰色の外壁に暗灰色の屋根を組み合わせた、無彩色による配色にあわせるようにします。
また、淡みのある暗青色ののれんや木材の看板を用いるなど、広告物のデザインや掲出方法にも配慮し、古い街道筋の風情を演出しましょう。

新しい建物は古い建物と対比の少ない白や明緑色

このゾーンでは、色彩ばかりでなく建築様式や素材なども古くからある建物にあわせていくことが理想ですが、既に整備された建物で、古い建物と建築様式が大きく異なるものについては、改修の際に古い建物と対比の少ない色彩を用いた配色にするなどまちなみの連続性を創出するための配慮をしましょう。

■豊前街道(A)(B)ゾーンの推奨配色

(10YR4.5/0.5)	(10YR4.5/0.5)	N4.0(N4.0)	(10YR4.5/0.5)	(N4.5)
N-30(N3.0)	N-90(N9.0)	N-95(N9.5)	(N3.5)	N-30(N3.0)
ゾーン内の住宅-1	ゾーン内の住宅-2	ゾーン内の住宅-3	ゾーン内の商店	ゾーン内の飲食店
15-40H(5YR4/4)				

焼し瓦葺きの屋根に、白漆喰や墨塗りの壁、八角形のパターナが繰り返される白と灰色のなまこ壁という、ほぼ無彩色の配色がこのゾーンの建物の典型になっています。こうした配色と並行して、材質や形態の面でも連続性をもたせることが大切です。

■伝統的な建築物とは異なる様式の建築物の推奨色

09-80B(10R8/1)	15-85B(5YR8.5/1)	19-90A(10YR9/0.5)	19-85B(10YR8.5/1)	22-90B(2.5Y9/1)	25-80B(5Y8/1)
----------------	------------------	-------------------	-------------------	-----------------	---------------

■写真 豊前街道(A)(B)ゾーンにふさわしい色彩の建物



伝統的な建築様式の建物を改装して使用している商店



周辺の景観にあわせて新築されたみやげ物店

●明緑色
※このゾーンの基調色は無彩色が基本ですが、ここに挙げた色彩は明るい無彩色と対比の少ない色彩です。

●左一伝統的な建築様式の建物を改装して商店として利用しています。
墨塗りの壁に、八角形のなまこ壁をあしらっています。
●右一周辺の建物の様式を模して新しく建てられたみやげ物店です。
このゾーンでは、色彩ばかりでなく、建築の規模や形態も八千代座の雰囲気損なわないように工夫することが必要です。

■写真 景観色彩シミュレーション



豊前街道(A)ゾーンの景観と対比的な例



正面住宅の屋根の彩度を下げ、前面の簡易広告物を整理した例

穏やかな色彩が連なるまちなみを正面の赤い屋根が遮断してしまっています。
外壁や屋根など建物の基調となる部位の色彩は特に慎重に選ぶ必要があります。
また、近隣消費が中心となる商店では、派手な色彩を使った広告物などは必要最低限にとどめるようにしましょう。

7 山鹿市景観形成地域にふさわしい色彩(シンボルストリートゾーン、温泉街ゾーン、国道3号沿道ゾーン)

風格ある歴史のまちにふさわしい明穏色・中穏色
このゾーンでは、歴史のまちにふさわしい落
つきのある色彩を中心に、風格を感じさせるま
ちなみの形成を図ります。

シンボルストリートゾーンや国道3号沿道ゾー
ンの建物は、両隣の建物の色彩に留意し、対照的
な色相を用いたり、トーンが大きく異なるよう
な基調色を選択することを避けましょう。

規模の大きい建物は細かな配飾を

温泉街ゾーンなどの規模の大きい建物は、色彩
や形態、素材が単調すぎると、周辺に威圧感を与
えるおそれがあります。

明穏色や中穏色をベースとしながらも、同色相
の色彩や白などを効果的に用いて、外観の分節
化を図るなどの細かい配慮をしましょう。

■シンボルストリートゾーン、温泉街ゾーン、国道3号沿道ゾーンの推奨配色

N-50(N5.0)	N-40(N4.0)	N-30(N3.0)	N-50(N5.0)	N-50(N5.0)
19-75C(10YR7.5/1.5)	09-80D(10R8/2)	22-80B(2.5Y8/1)	25-75B(5Y7.5/1)	17-80D(7.5YR8/2)

■集合住宅—温泉街ゾーン シンボルストリートゾーン、温泉街ゾーン、国道3号沿道ゾーンの推奨色

●白	N-95(N9.5)	N-90(N9.0)	●明灰色	N-85(N8.5)	N-80(N8.0)
●明穏色	05-75B(6R7.5/1)	(10R7.5/1)	05-75B(6YR7.5/1)	19-75C(10YR7.5/1.5)	22-70B(2.5Y7/1)
●中穏色	05-60B(6R6/1)	09-70D(10R7/2)	15-70D(6YR7/2)	17-60D(7.5YR6/2)	19-60F(10YR6/3)
					22-60D(2.5Y6/2)

■写真 シンボルストリートゾーン、温泉街ゾーン、国道3号沿道ゾーンの現況



穏やかな質感のタイルを使用した集合住宅の例



乱立する広告物と鮮やかな屋根色の建物

■写真 景観色彩シミュレーション

●左一写真の集合住宅は、つやを抑えたY(黄)系色相の明穏色のタイルに、暗灰色の勾配屋根を組み合わせた落ち着いたある外観になっています。
●右一大面積の広告塔や、壁面を覆いつくすような広告物が乱立するとまちなみの基調色が感じられなくなってしまう。



国道3号沿道ゾーンの景観と対比的な例



エントランス廻りを除く、外壁の鮮明色を整理した例